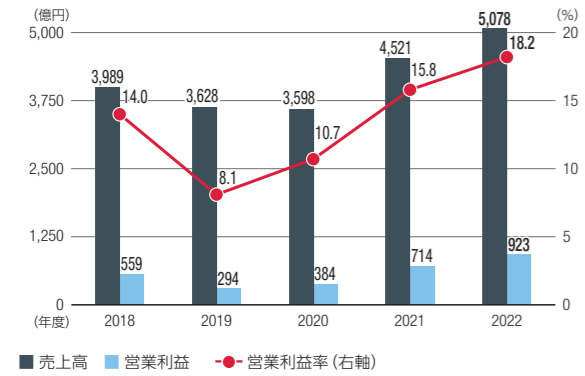


財務・非財務ハイライト

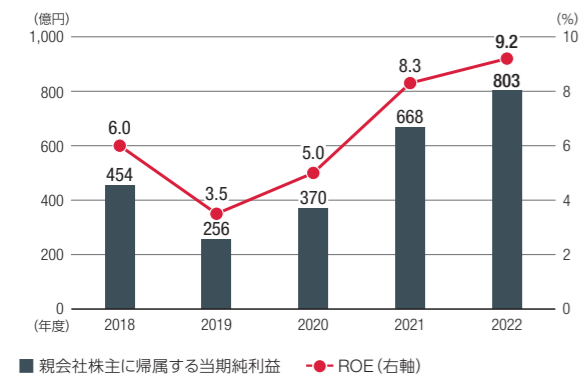
財務ハイライト (連結)

業績



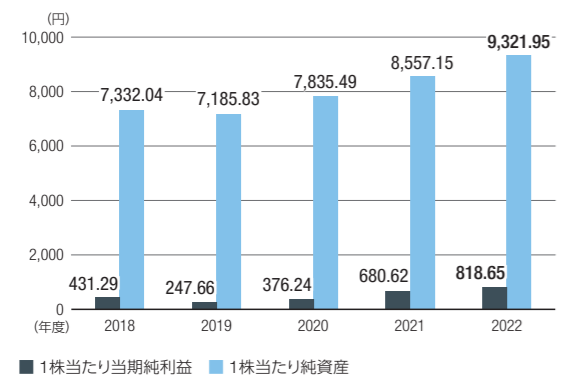
2022年度後半において一部の半導体で需要が調整局面に入ったものの、為替の円安効果もあり過去最高売上高を達成しました。自動車市場は、脱炭素社会に向けた電動化・電装化の促進による車載半導体への強い需要が継続しました。また、産業機器市場は、工場の脱炭素化の促進や、生産能力増強・自動化・デジタル化投資の拡大などにより順調に推移しました。

親会社株主に帰属する当期純利益・ROE



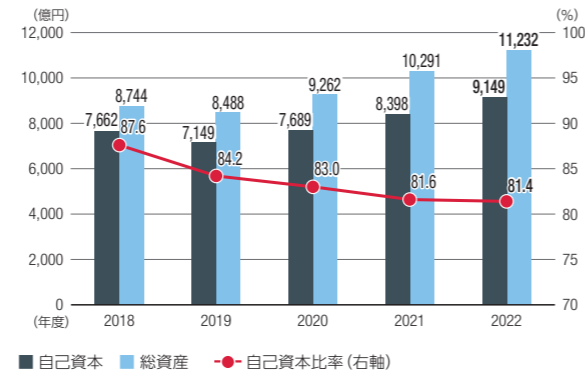
営業利益の増加に加えて為替差益が発生したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比135億4千8百万円増加の803億7千5百万円となりました。この結果、ROEは前期比0.9ポイント改善し、9.2%となりました。

1株当たり当期純利益・1株当たり純資産



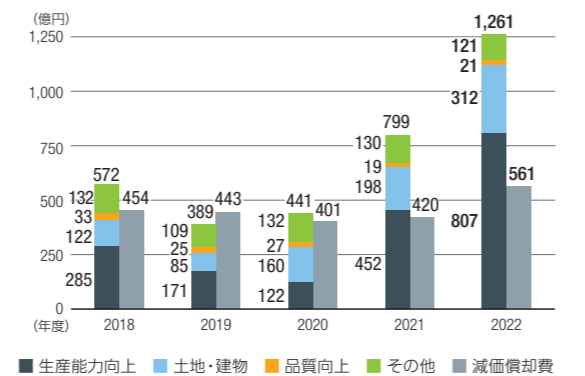
親会社株主に帰属する当期純利益の増加により、1株当たり当期純利益、1株当たり純資産ともに前期比増加しました。

自己資本・総資産



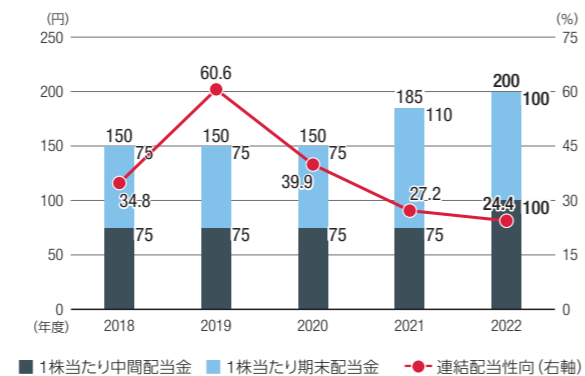
有形固定資産や棚卸資産が増加したことなどにより、総資産は前期末に比べて941億5千1百万円増加、自己資本は750億9千5百万円増加して9,149億1千2百万円となりました。自己資本比率は前期末とほぼ同水準の81.4%となりました。

設備投資・減価償却費



ロームでは継続して積極的に設備投資を実施しています。2022年度はLSIやSiCを含むパワーデバイスを中心に生産能力拡大のための設備投資を強めた結果、前期比461億3千1百万円増加の1,261億1千6百万円となりました。

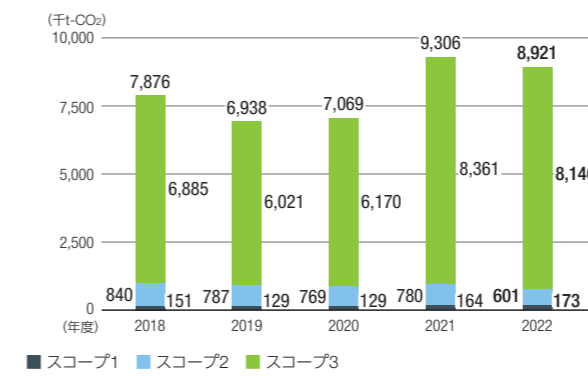
1株当たり配当金・連結配当性向



ロームでは安定配当を基本方針としており、連結配当性向30%を目安として、業績の改善により配当金の増加に努めています。年間配当金は前期比15円増加の200円となりました。

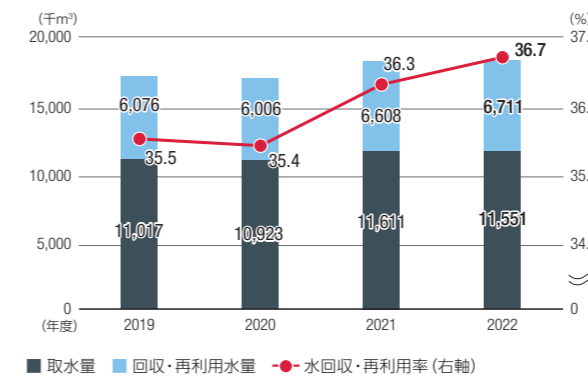
非財務ハイライト (連結)

CO₂排出量推移



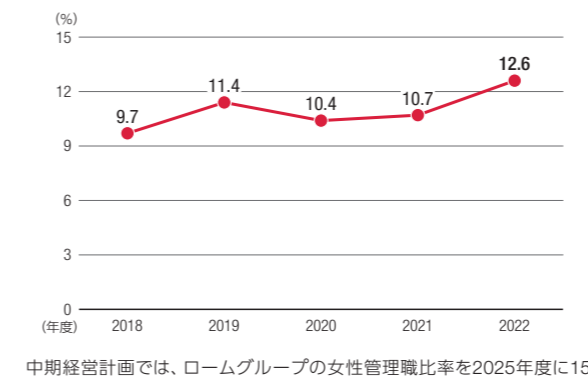
2050年度にGHG排出量実質「ゼロ」を目指す「ロームグループ環境ビジョン2050」を達成するため、2030年度の中長期目標としてGHG排出量(スコープ1、2)を2018年度比で50.5%以上削減することを掲げています。2021年度は2018年度比で6.2%、2022年度は21.8%の削減を達成しています。

生産拠点の取水量、回収・再利用水量、水回収・再利用率



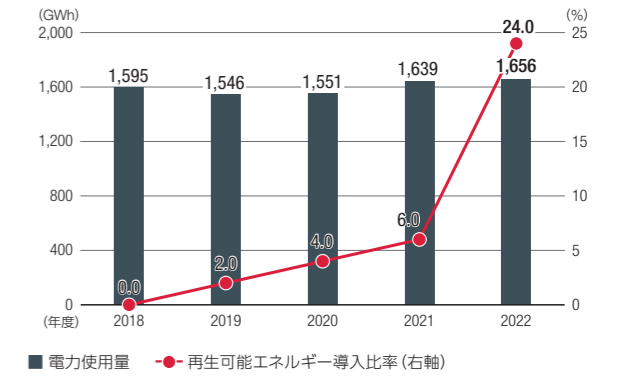
「ロームグループ環境ビジョン2050」における「資源循環」の取り組みとして、2030年度に水の回収・再利用率を2019年度比で5.5%以上向上することを目標としています。2022年度は2019年度比で1.2%向上し、計画的な水リサイクル設備の導入を進めています。

女性管理職比率



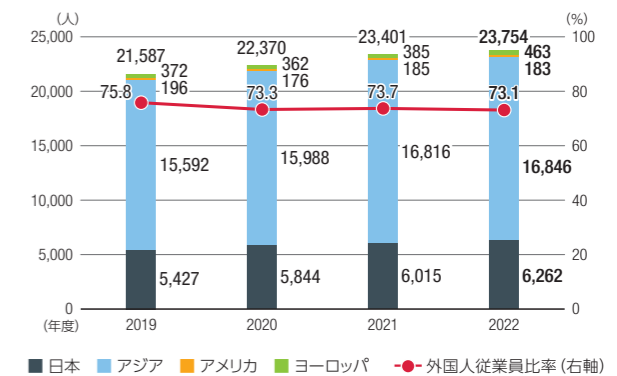
中期経営計画では、ロームグループの女性管理職比率を2025年度に15%、2030年度には20%にすることを目標にしています。今後も研修機会の充実や従来の制度改訂、新制度の導入などを進め、目標達成に向けて取り組んでいきます。

電力使用量・再生可能エネルギー導入比率



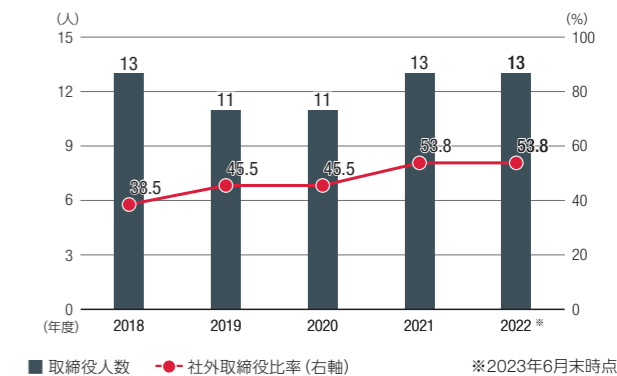
国内外のすべての事業活動で使用する電力を2050年度に100%再生可能エネルギー(水力、地熱、太陽光発電など)由来とする計画を公表しています。2022年度は主力生産拠点であるタイ工場も再生可能エネルギー100%となり、全体で24%の導入が完了しました。

国別従業員数・外国人従業員比率



2030年度に「グローバルメジャー」を目指すにあたり、未来を担うグローバル人材の採用を積極的に行っています。今後も従業員の多様性を高める人材施策を進めていきます。

取締役人数・社外取締役比率



※2023年6月末時点
中期経営計画の中で掲げた「社外取締役の人数を過半数に引き上げる」という目標を2021年度に達成し、現在も維持しています。